

1 題材名 「すききらいなくたべよう」

学級活動(2)エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 目標

- (1) 食事の大切さを理解することができる。【知識及び技能】
- (2) 健康のよい食事のとり方を考え、望ましい食習慣を形成するために判断することができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 元気に過ごすために、給食や家庭での食事では好き嫌いをなくいろいろなものを食べようとするすることができる。
【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
①健康な体を作るために、好き嫌いしないでバランス良く食べることが大切であることを理解する。	①好き嫌いせず、食べることの大切さについての話を聞き、自分の食べ方をふり返ることができる。分かったことや思ったことをワークシートに書いたり、発表したりすることができる。 ②食事のとり方などについて、正しい知識・情報に基づいて自ら判断できるようにする。	①何でも食べてみようとする意欲をもつことができる。 ②自分の食事を見つめ直して、主体的によりよい食事をしようとしている。

4 食育の視点

- ・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の取り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。
- ・正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。

5 児童の実態

よりよい生活を 築くための知識・技能に関して	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現に関して	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度に関して
(食育の知識はあるか) 入学当初には、全体的に食べる量が少なく、配膳された分を食べきれず残してしまう児童が多くいた。2 学期になり、自分の食べられる量を知り、「少なめ・普通」を自分で選択し、お皿に盛り付けたものは、残さず食べきれ児童が増えてきている。また、副菜の食缶の残菜が無い日も出てきている。しかし、個別に見ると、今でも、食べた経験がなかったり、嫌いだとすると一口も口に入れること無く残してしまう児童もいた。いろいろなものを食べた方がいいとは思ってはいるが、具体的な知識が伴っていない。	(課題を見付けられるか) 現時点では、苦手なものに対しての、関心は高まってはいるが、食べるとなると、未だに、ひとくち食べてみることもできない児童もいる。また、すすんで好き嫌いをなく食べるためにどのような食生活がよい判断して実行しようとする児童は少ない。	(進んで取り組んでいるか) 第 1 時の「やさいとなかよくなるう」の学習前に給食についてアンケートをとったところ、「苦手な食べ物がある」と答えたのは、21 人(30 人中)であった。特に、具体的な苦手なものとして、なす、トマト、キノコ類など野菜類が多く記載されていた。その後、第 1 時で野菜の学習をした際の振り返りには、「野菜をもっと調べて仲良くなりたいと思う。」「残さないで食べたいと思う。」など、野菜についての関心が高まっていることが見られる振り返りが多くあり、野菜に対しての子供たちの苦手意識は減ったようであった。

6 指導の手だて

(1) 課題を見付けられるようにするための指導の工夫

①主体的に学習に取り組むための導入の工夫

児童が食事に興味をもって取り組めるようにするために、第 1 時では、野菜クイズをしたり、本物の野菜を用意して触ったり、匂いを嗅いだりしながら学習する。本時では、今日食べたばかりの給食の写真を提示し、「今日も給食は美味しかったね。好きなものはあったかな。」「全部食べられたかな。」「残してしまったものがあるかな。」と食べたものを思い起こしながら、自分のこととして授業に取り組めるようにする。

②実感を伴った理解のための工夫

本時では、栄養士から直接、給食室での給食作りの様子を聞くことで、普段何気なく口にしている給食には、栄養士の工夫や、思いがあることに気付くことができるようにする。このことで、「何でも食べられるようになりたいな」という思いをもつことができると考える。

(2) すすんで課題を解決できるようにするための工夫

①食事への関心をより高めるために友達と意見を共有する話し合い活動の工夫

友達に自分のことを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、考えを共有することで、好き嫌いは人それぞれに違いがあり、また、解決法もいろいろな方法があることに気付ける。自分だけでなくみんなも一緒に好き嫌いをしないで食べることにチャレンジしていこうという関心や意欲を高めたり、方法を選んだりすることができると考える。

7 指導と評価の計画

学習過程		課題を見付ける		課題を解決する
時間		1	2	3(本時)
学習内容及び活動		「やさいとなかよくなろう」 1 野菜当てクイズをする ・野菜への興味をもつ。 2 学習課題を設定する ・野菜と仲良くなるという課題を知り、調べる意欲をもつ。 3 野菜調べを行う ・実物の野菜を見るだけでなく、触ったり匂いを嗅いだりして様々なことに気付く。 4 給食を振り返る ・当日の給食に入っていた野菜と関連付け多くの野菜を食べていることに気付く。	「バランス良く食べよう」 1 今日の学習の見通しをもつ 2 食べ物の3色の栄養素について知る ・いろいろなものを食べることの大切さを知る。 3 食べ物が自分の体をどのように消化・吸収されるかを知る ・それぞれの器官の役割を知る。 4 まとめと振り返りをする	「すききらいなくたべよう」 1 今日の学習の見通しをもつ ・今日の給食を思い起こして、自分の食べたものなどを振り返る。 2 栄養士の話聞く ・給食の栄養バランスのことや、食べやすくするための工夫があることを知る 3 自分の好き嫌いを振り返り、課題を考える 4 好き嫌いしないで食べる方法を考える 5 全体で共有する 6 学習を振り返る ・自分が頑張ることを決めて書く 7. 自分が決めたことを発表し合う 8. 全体で振り返る
評価の重点	知・技		①	
	思・判・表	①		②
	主体的	①		②

授業外活動

- ・児童の授業での振り返りを基に、家での食事を調べる活動を行う
- ・給食で食べている野菜や、家庭で食べている野菜を調べる活動を通して気付いたことを振り返る。

8 本時の展開

(1) 目標

健康のために好き嫌いをしないで、何でも食べることの大切さを理解し、給食などで残さず食べるための工夫を考えて、自分が取り組むことを決めることができる。

(2) 展開

学習活動	□個別最適な学びへの支援 ○評価(評価方法)
1 今日の給食の写真を見て、残さず食べられたかを確認する T: 今日の給食です。残さずに食べられましたか。 C: 食べられました。 C: 減らしたから食べられました。 C: ちょっと残しました。	□給食の写真を掲示し、想起しやすくする。
2 栄養士のお話を聞いて、給食は栄養バランスを考えて作られていることを知る	□栄養士のお話から、給食の栄養バランスを考えてあるので、何でも食べることを大切に気付くことができるようにする。 □子供たちの苦手な野菜でも小さく切ってハンバーグにしたり、スープにしたりと工夫をしてくれていることに気付くことができるようにする。
すききらいなく たべられるほうほうを かんがえよう	
3 自分たちの好き嫌いについて考え、自分の課題に気付く(好き嫌いを表に書き込む。) T: みなさんは、どんな食べ物が好きですか、苦手ですか。 C: 私もトマトが苦手。私は牛乳は好きだよ。 T: では、班のお友達と好きなもの苦手なものについて話してみよう。(話し合い)	□好き嫌いなど苦手な食べ物は人によって違うことなどに気付くことができるようにする。
4 好き嫌いをしないで食べる方法を考える T: 苦手なものを食べるための作戦はありますか。 C: 好きなものと一緒に食べる作戦。先に食べる作戦。 ・ワークシートに書く。 ・隣の児童と話しをして、自分のしていることや友達のしている方法を知る。(話し合い)	□思いつかない場合は、友達のを真似してもよいことを伝える。
5 全体に発表する	
6 学習を振り返る 自分が頑張ることを決めて書く。	○自分の課題に気付き、食べられるようにするための方法を決めることができる。(発言・ワークシート)
7 自分が決めたことを発表し合う	
8. 全体で振り返る	□明日の給食から自分の決めた作戦を試すことを促す。